

水仙に雨のひらがな降る日かな

藤田湘子

漢字好きの湘子が、水仙に降る雨にひらがなを感じたところが興味深い。六十四歳のオジサンが感ずることではない。まるで乙女のような抒情性。湘子はほんとに詩人だなあと思う。「ああ見えて先生は結構ロマンチストなのよ」と言っていた飯島晴子の言葉を思い出す。

水仙が咲いている。崖や岸の群生ではなく小さな庭。清々しい空気。静かな雨が降る。小さな雨粒が当たったのか花が幽かに揺れた。青々として真直ぐな葉も雨粒が流れ光っている。花も葉も静かな雨に静かに揺れるさまが、まるでひらがなを描くようにやさしい。へやすやすと家得しにあらず水仙花へ母には海の日の出贈らむ水仙花へ水仙やたそがれは海おもふ性さがも好きな句。

1990年（H2作）第九句集『前夜』 鑑賞・野本京